

いわて中山間地域取組事例集



いわて中山間地域取組事例集

目次

いわて中山間賞受賞団体

■ 八幡平市 横間集落	2
～虫追いまつりの継続と地域の特産物の伝承～	
■ 奥州市 成岡田農地・水保全管理活動組織	4
～棚田などの美しい農村景観の形成～	
■ 奥州市 梁川ひつじ飼育者の会	6
～めん羊導入による耕作放棄地の解消～	
■ 花巻市 町井集落	8
～地場産農産物を活用した6次産業化の取組～	
■ 西和賀町 大野区	10
～「大野再生&活性化計画」に基づいた多様な取組～	
■ 一関市 千厩町大平集落	12
～交付金の有効活用による集落の体制整備～	
■ 山田町 白石集落農業生産組合	14
～そばと水車小屋を組み合わせた農村交流の取組～	

いわて中山間地域いきいき暮らし活動支援事業実施集落

■ 花巻市高松地区 明日の高松を考える会	16
～安心して暮らせる、未来に希望の持てる高松～	
■ 北上市更木地区 農事組合法人さらき	18
～地域間交流を通して伝える更木の宝～	
■ 釜石市橋野地区 橋野町振興協議会農業農村活性化推進部会	20
～梅えもんと心躍る舞茸で世界遺産のおもてなし～	
■ 住田町下有住地区 下有住いきいき活動協議会	22
～そばで地域がいきいきと～	
■ 久慈市山形町日野沢地区 日野沢館石会	24
～山里の恵みを生かした豊かな農山村の創造～	
■ 洋野町大沢地区 大沢農村振興会	26
～究極のゴール…出稼ぎのないむらをつくること…実現に向けて～	
■ 九戸村瀬月内地区 瀬月内自治会	28
～地域住民総参加による瀬月内集落の環境改善と6次化の推進～	

制度・事業の紹介

・ 中山間地域等直接支払制度について	30
・ いわて中山間地域いきいき暮らし活動支援事業について	30

平成29年度
いわて中山間賞
受賞

八幡平市 横間集落

～虫追いまつりの継承と地域の特産物の伝承～

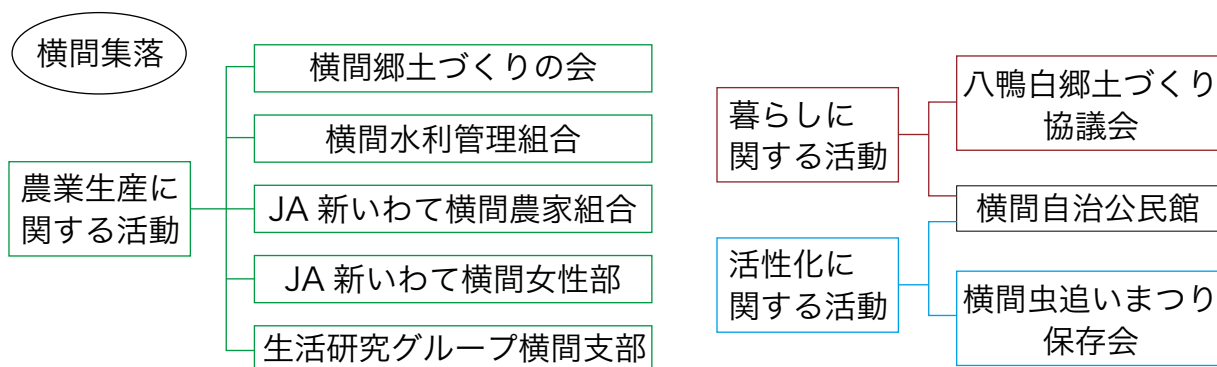


概要

- 東北自動車道安代 IC から西へ約 2 km、JR 花輪線横間駅周辺に位置する。嘉永六年（1853 年）に百姓一揆「横間の一揆」が起きた地とされ、天明の大飢饉（1780 年代）の時代に五穀豊穡を願って始まった「横間虫追いまつり」（八幡平市無形民俗文化財指定）を伝承するなど、歴史のある農村地域である。
- 全戸数は 18 戸 49 人であり、65 歳以上の割合が 61.2% と高齢化が進んでいる。
- 中山間地域総合整備事業（県営事業）によりほ場整備が行われ、水稻とりんどうが基幹品目となっている。



組織体制図



特徴的な取組

- 山あいの不利な立地条件において一早くりんどうを導入し、地域一丸となって生産技術の向上を推進するとともに、ほ場整備の実施により、生産性・収益性の向上に取り組んでいる。
- 集落の沢沿いに広がる約 70a の広大な水芭蕉の群生地において、横間自治公民館が中心となり、来訪者のための案内板の設置や遊歩道の整備を行い、住民総出で下草刈り等の保全活動を定期的に行っている。
- 地域の活気を保つため、毎年 7 月に伝統行事「横間虫追いまつり」を実施しており、中国人留学生等の学生ボランティアを受け入れるなど、その継承に力を入れている。
- 女性グループが中心となり、公民館に併設された調理場を活用して、味噌付けきりたんぼ、特製味噌、特製焼き肉のたれなどの特産物・郷土料理づくりを行い、他地域との交流を深めるツールにしている。



①りんどうの収穫作業

水稲との転作により、安定的な生産を実施している。



②水芭蕉群生地の管理作業

水芭蕉を「集落の宝」と位置づけ、歩道や案内板の整備を行っている。



③横間虫追いまつり

地域の伝統行事として住民等が共同し、毎年7月に開催される。



④味噌つけきりたんぼ作り

集落で製造した「特製味噌」を使用し、虫追いまつり等で提供している。



将来の目指す姿

(1) 横間虫追いまつりの継続

- 地域の伝統的な行事である「横間虫追いまつり」が継続されている。
- まつりの継続により地域のまとまりが維持され、伝統文化が継承されている。
- 地域外の人も祭りに参加し交流することで、まつりの活気が保たれている。

(2) 地域の特産物の伝承と特産物を介した交流

- 特産物（特製味噌、特製焼き肉のたれ）や伝統料理（味噌つけきりたんぼ）を継承し、地域内外の人に振る舞うなど、特産物を介した交流活動を継続する。

(3) 農地の保全・農業担い手の確保

- 農業者及びその他の者（地域住民、団体など）により農地が保全されている。
- 農業の担い手確保により、りんどうなどの生産が継続されている。

(4) 水芭蕉の群生地の保全

- 整備、管理が継続され、地域外からも人が訪れている。

平成29年度
いわて中山間賞
受賞

奥州市 成岡田農地・水保全管理活動組織

～棚田などの美しい農村景観の形成～

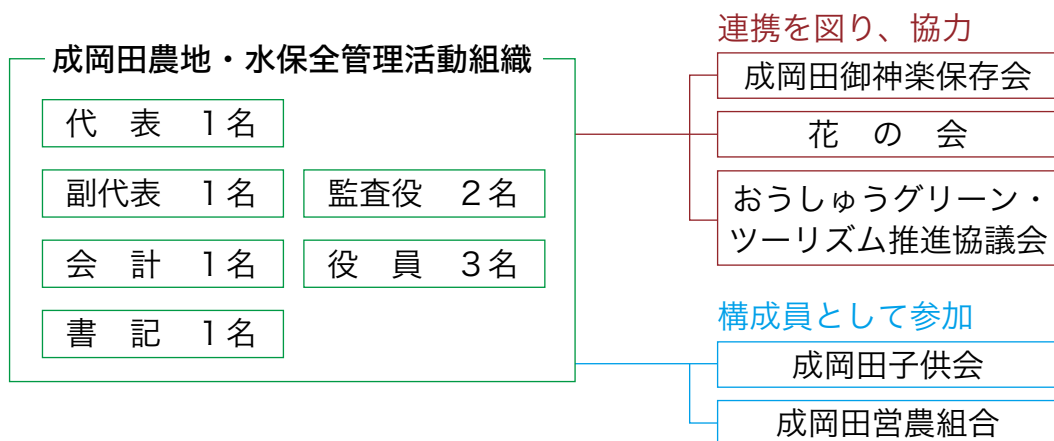


概要

- 奥州市南東部に位置する前沢にあり、北上川と東稲山の間位置する生母地域の山間部側の集落である。水稻を中心とした農家が多いが、農地は東稲山麓の傾斜地に広がっており、大半の水田は耕作条件が不利な小区画の棚田である。その他、繁殖牛農家が構成員に加わっており、耕畜連携による農業が定着している。
- 高齢化と人口減少が進んでいるが、世代交代を積極的に進めながら集落農業の維持に取り組むとともに、地域に伝わる祭事や成岡田神楽の伝承に努めている。



組織体制図



特徴的な取組

- 農地の維持・管理等の共同取組活動において、次世代に積極的な働きかけを行い、世代交代を進めるとともに、地域外に住む農地所有者にも積極的な呼びかけを行い、美しい棚田等の景観を守りながら営農活動を継続している。
- 前沢牛ブランドの一翼を担う和牛繁殖農家8戸が構成員となり、水稻農家との稲わらや堆肥交換による地域内の耕畜連携を進めるなど、持続的な農業が定着している。
- 農業・農村の多面的機能の増進を図る活動として、成岡田御神楽保存会と連携し、伝統芸能である「成岡田神楽」の保存・継承活動を行うことで、子供や女性、高齢者等、集落住民全員での農村コミュニティの維持・強化が図られている。
- 景観保全の目的で、子供も参加した花壇づくりを継続するほか、都市部から農山村体験型教育旅行の受け入れを行い、収穫した米を都市住民に届ける取組を行うなど、地域内外との交流を深めている。



活動写真



①協定農用地の大部分を占める棚田
農用地は束稲山麓の傾斜地に広がっており、大半の水田は耕作条件が不利な小区画の棚田である。



②成岡田神楽
地域に伝わる農村文化の伝承活動を通じた農村コミュニティの維持・強化が図られている。



③農山村体験型教育旅行の受け入れ
都市部から農山村体験型教育旅行の受け入れを行い、農業・農村の良さを集落外部にも発信している。



④景観形成のための花木の植栽等
子ども達も参加した花壇づくりを継続しており、地域の美しい景観形成や、世代間交流につながっている。



中山間地域等直接支払交付金の実施状況（H29）

- 交付面積：32.8ha（すべて田・急傾斜）
- 交付金額：6,892 千円（うち、共同取組活動充当額 984 千円）



将来の目指す姿

将来にわたり農業生産活動等が可能となるような実施体制を構築するために、引き続き集落内での世代間交流を継続していく。現在は、徐々に協定農業者の世代交代が進んでいることから、維持が難しくなっている協定農用地はないが、農業従事者が減少していることから、成岡田営農組合における農地集積を進めることと併せて、集落外の担い手とも連携できる仕組みを構築していく。

そのために、農道への砂利敷を実施して農業生産条件を強化することと併せて、農作業の委託面積を協定農用地の20%以上とする目標を立て、担い手への農作業の委託を進める。

平成27年度
いわて中山間賞
受賞

奥州市 梁川ひつじ飼育者の会

～めん羊導入による耕作放棄地の解消～

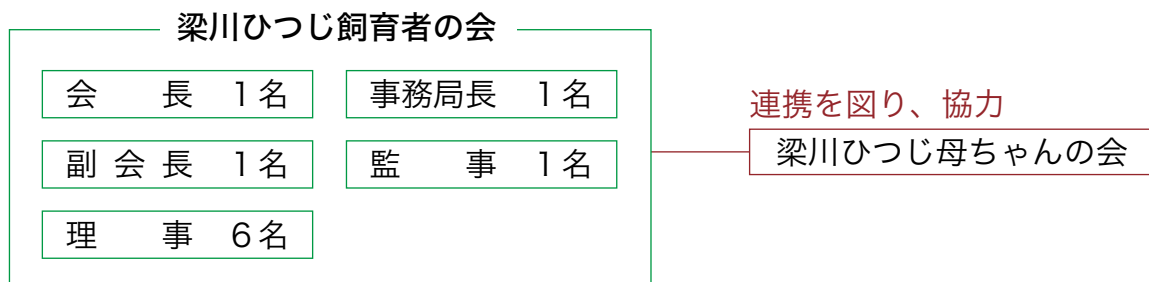


概要

- 奥州市北東部に位置する江刺にあり、集落のほぼ中央を国道 107 号線が東西に、一級河川「広瀬川」が南北に縦断している地域である。水稻を中心とした農家が多い。
- 梁川地域における中山間地域等直接支払制度の協定集落（19 集落）の代表者が参画する「中山間組織梁川連絡協議会」において、耕作放棄地解消の取組として、めん羊の活用を試みた。平成 22 年には、「梁川ひつじ飼育者の会」を立ち上げ、梁川地区の先導的取組として実施している。



組織体制図



特徴的な取組

- 「人手をあまりかけなくても、ほ場の除草ができること」、「高齢者でも取り組めること」を利点として、転作牧草水田等にめん羊を放牧し、耕作放棄地の発生防止と地域活性化につなげている。
- 羊肉は、県内や首都圏のレストランへ「やながわ羊」として出荷している。シェフから高い評価を得ており、継続的な取引につなげている。シェフを招聘した生産現場の見学などを通じて、「安全・安心」な情報を発信している。
- 飼育者の配偶者等で構成される「梁川ひつじ母ちゃんの会」が主体となり、地域の高齢者や園児を対象に、羊毛加工講習会や仔羊とのふれあい体験を開催している。また、地域のお祭りの際には、女性が中心となり、ひつじ料理を振る舞うなどしている。
- 平成 30 年度には「岩手めん羊研究会」に加盟し、県内のひつじ生産地との情報共有を図り、飼養管理技術の向上につなげる取組を行っている。



活動写真



①めん羊を放牧する農用地

定置式障害物を設置した耕作放棄地内に放牧し、継続的に除草が行えるようにしている。



②仔羊

自家交配によるめん羊の生産も行っている。(毎年2～3月に誕生)



③首都圏シェフの見学

羊肉販売にあたり、シェフを招いた産地見学を開催し、顔の見える「安全・安心」な情報を発信している。



④羊毛を活用したイベント

「梁川ひつじ母ちゃんの会」と連携し、羊毛加工講習会の開催など、世代間交流を実施している。



めん羊放牧の実施状況（H29）

- 放牧面積：5.6ha（うち 2.1ha が、中山間地域等直接支払交付金の交付対象面積）
- めん羊頭数：74 頭 ○ 羊肉販売額：4,320 千円



将来の目指す姿

- さらなる耕作放棄地の解消と農村景観の改善のため、めん羊飼育頭数の拡大を図る。(目標飼育頭数：100 頭)
- めん羊の放牧による耕作放棄地の解消が明らかとなったことから、今後は、さらに食味の良い羊肉を消費者に供給するための肥育技術の向上と品質の安定化を図る。
- 自主運営による「羊肉販売所」「ジンギスカンハウス」を開設し、会員が育てた「安全・安心」な羊肉を安価で美味しく提供することにより、消費者との交流を促進し、地域活性化を図る。

花巻市 町井集落

～地場産農産物を活用した6次産業化の取組～

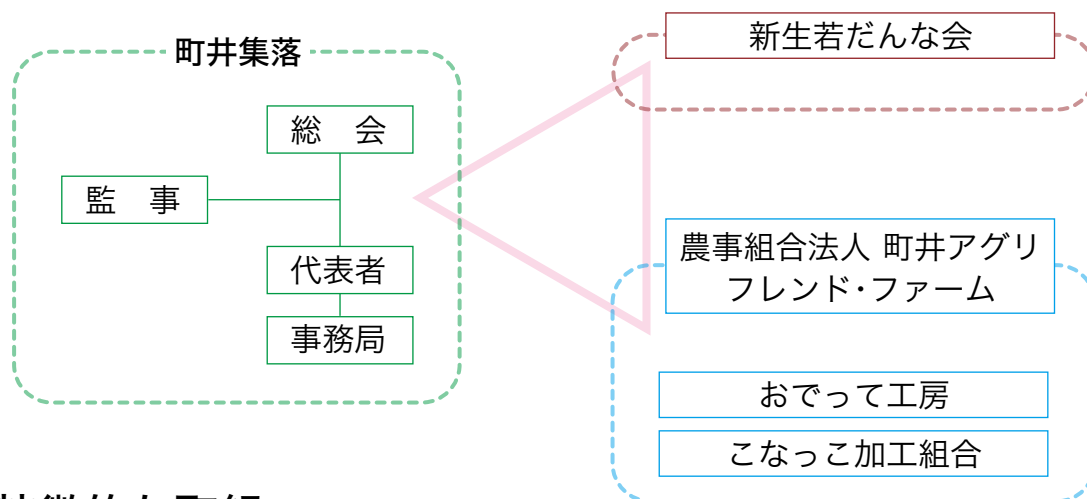


概要

- 花巻市東和町の猿ヶ石川流域に位置し、水稻主体の複合経営が多い集落である。
- 農家戸数は30戸で、そのうち12戸が中山間地域等直接支払制度に取り組んでいる。協定農用地面積は3.9haであり、主な作付けは、水稻、大豆、えだまめ、はとむぎである。



組織体制図



特徴的な取組

- 平成5年に、集落の40～50代のメンバーで「若だんな会」を結成するとともに、集落の夢を掲げた将来ビジョン「アグリ・フレンド in 町井」を作成し、以後、その実現に向けて取り組んでいる。
- カブトムシを見て、触れて、楽しむことができる「カブト虫ふれあい童夢」を整備して集客するなど、地域資源を活用したユニークな取組を行っている。また、県外中高生の農業体験学習の受入れや、女性グループによる地場産の米や大豆を使った「パンづくり教室」や「みそづくり教室」の開催など、都市農村交流に積極的に取り組んでいる。
- ほ場整備や中山間地域等直接支払制度の活用、農事組合法人町井アグリフレンド・ファームの設立により、営農体制を強化するとともに、農事組合法人の加工部門では、米粉を原料としたパンやピザ生地の製造販売など、6次産業化の取組が行われている。
- 将来ビジョンは現在、「若だんな会」の子世代である「新生若だんな会」に引き継がれ、集落の夢の実現に向けた取組が継続されている。



活動写真



①かぶと虫ふれあい童夢

地域のシンボルであるサイカチの木に集まるカブトムシに着目し、開始した取組である。



②北海道の中学生による田植え体験

集落では、グリーン・ツーリズムや都市農村交流にも、地域ぐるみで積極的に取り組んでいる。



③女性グループによる米粉パンの製造

平成21年に「おどって工房」を設立し、以降、米粉を使用したパンやピザ生地の製造・販売を行っている。



④米粉パンの販売イベント

花巻市内の産直施設や空港で販売しており、しっとりもちもち食感が評判になっている。



中山間地域等直接支払交付金の実施状況（H29）

- 交付面積：3.9ha（すべて田・急傾斜）
- 交付金額：654千円（うち、共同取組活動充当額196千円）



将来の目指す姿

- 集落のさらなる活性化のためには、高収益作物の生産振興と地域の特徴を生かした加工品の開発が必須であり、米以外の作物生産の振興や、加工品開発にシフトした複合的農業を目指す。
- 集落内にレストランと直売所を併設し、町井集落の農産物を食材にした郷土料理の提供などを通じて、6次産業化の取組を拡大する。
- 都市農村交流を推進し、相互の理解や共存の意識を深めていくため、農業体験学習や田舎ならではの料理の提供のほか、農家が消費者に代わり野菜を育て、遠く離れていても農作物に対する愛着と恵みの喜びを味わってもらう「農産物オーナー制度」を導入する。

平成30年度
いわて中山間賞
受賞

西和賀町 大野区

～「大野再生&活性化計画」に基づいた多様な取組～

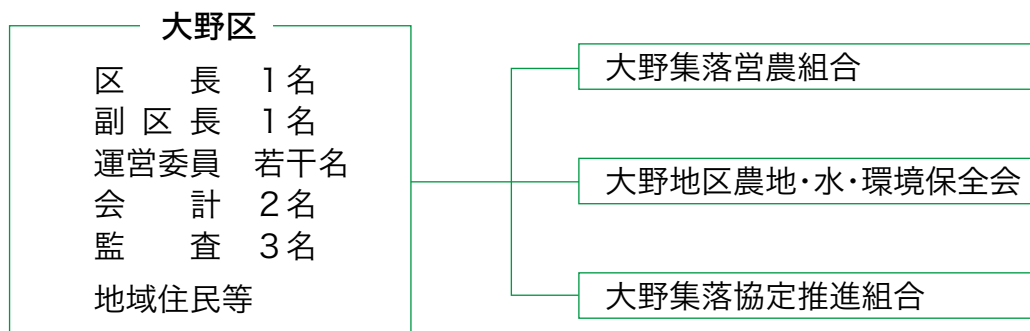


概要

- 西和賀町の中央部・沢内盆地に位置する。地域は昔から農業を中心として成り立ち、農作業や地域の各種行事などが共同で行われ、助け合いの精神が保たれている。
- 全戸数は 43 戸・140 人であり、集落営農組織や認定農業者等の担い手を中心となって農地を管理している。
- 水稻、そば、大豆、花きなど多品目を生産している。また、中山間地域等直接支払制度にも取り組んでおり、担い手農家による農作業の受委託等を通じて、耕作放棄地の発生防止が図られている。



組織体制図



特徴的な取組

- 地域で話し合いを重ね、平成 22 年 3 月に、今後の地域づくりの指針「大野再生&活性化計画」を策定し、以後、計画に基づき、「安心して暮らせる大野」、「希望をもって暮らせる大野」を目指して活動している。
- 中山間地域等直接支払制度を活用し、そばや大豆、わらびなどの作付けを通じて、耕作放棄地の解消に努めている。交付金は、水路の整備や農用地の保全管理活動に充当するほか、今後、より省力的・効率的な営農を行うため、交付金を積み立て、共同で利用する農業機械を購入することとしている。
- 地元の企業と連携してそばもちを商品化するなど、大野区で生産されたそばの高付加価値化に取り組むほか、町内の料理人の指導を受け、各家庭に伝わる漬け物や煮しめなどの郷土料理のレシピ化を進めている。
- 国際ボランティア NGO 'NICE' が企画する国際ワークキャンプや民間企業の社員研修を受け入れ、雪あかり等のイベントや農作業体験を通じて、地域活性化や地域の魅力発信に積極的に取り組んでいる。



活動写真



①耕作放棄地を活用した大豆栽培

耕作放棄地の発生防止や農産加工品の開発のため、集落営農組合が、農用地の有効活用を図る。



②そばもち等の料理

旅館「山人」の料理長からアドバイスを受けながら、味のレベルアップやレシピ化を図る。



③NICEと保育園児の交流

農作業体験や保育園・敬老会での交流活動などの機会を提供し、地域の自然や食文化等をPRしている。



④企業研修での雪あかりの開催準備

NICEを通じてNTT東日本の企業研修を受け入れ、社員の人材育成に協力している。



中山間地域等直接支払交付金の実施状況（H29）

- 交付面積：47.0ha（すべて田・緩傾斜）
- 交付金額：3,757千円（うち、共同取組活動充当額 2,555千円）



将来の目指す姿

「安心して暮らせる大野」、「希望を持って暮らせる大野」を目指し、地域にある資源を最大限に活用した取組により、豊かな地域社会を築き上げる。

- (1)地域の農地を、地域ぐるみの取組で維持する。
- (2)地域に伝わる郷土料理、漬物、加工品等の食の技を伝承するとともに、それらを生かして商品化を図る。
- (3)知的障害者授産施設「ワークステーション湯田・沢内」と連携して、子供から高齢者、障害者がともに暮らす地域を実現する。
- (4)企業研修などの都市住民との交流を通じて、定住を促進する。

平成30年度
いわて中山間賞
受賞

一関市 千厩町大平集落

～交付金の有効活用による集落の体制整備～

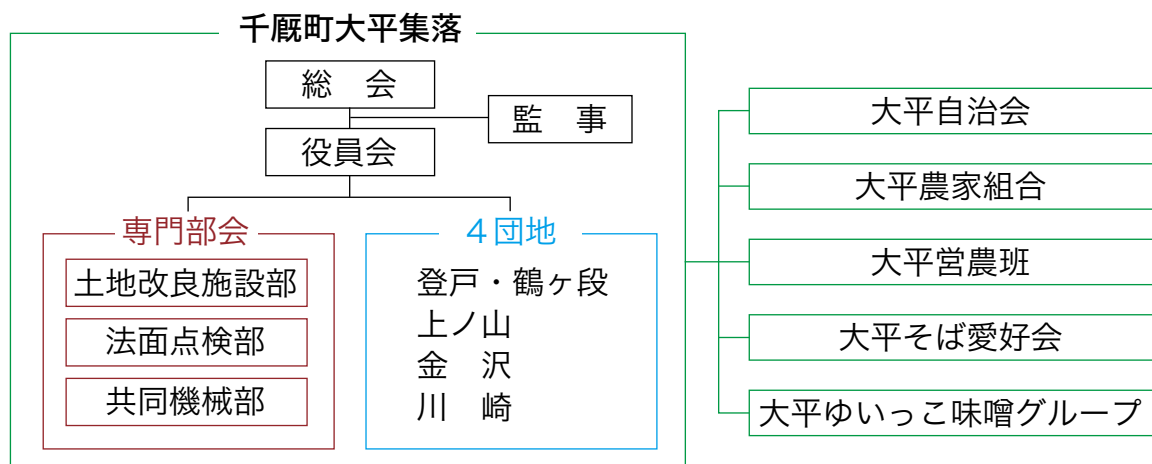


概要

- 千厩町大平集落がある奥玉地区は、一関市千厩町の北東部に位置し、室根山麓に抱かれ、四方を囲む山の斜面と沢沿いに農地が点在している。
- 構成員は 84 人（全員が農業者）である。
- 農業経営は、水稻を基幹として、野菜及び畜産の複合経営となっている。



組織体制図



特徴的な取組

- 3つの専門部（土地改良施設部、法面点検部、共同機械部）を設置することで、活動内容の具体的な方針等を取り決め、安定した農業生産活動が行われている。
- 中山間地域等直接支払制度を活用し、美しい景観形成や、将来の担い手の育成を図っている。交付金は、花壇の整備やため池の危険啓発看板の設置等に充当するほか、草刈り機の購入に向けて積立も行い、農業生産活動の省力化や世代交代を図る。
- 景観作物としてそばを導入したことをきっかけに、男性が中心となり、そばの加工・販売に取り組んでいる。県内外への視察研修を通じて、そば打ちの技術や経営を学び、「新そばまつり」や「小さなそばまつり」等の場で、地域内外の訪問者に販売しており、地域のにぎわい創出と、集落の連携強化につなげている。
- 平成30年7月に結成された、集落の女性で構成される「大平ゆいっこ味噌グループ」は、集落内で生産された大豆を味噌に加工している。今後は、そばと同様に高付加価値化を進め、農家所得の向上を目指していく。



活動写真



①そばの栽培風景

大平そば愛好会が、そばの振る舞いを行うなど、地域行事への関わりを拡げている。



②集落で整備した花壇

地域の女性を中心となって花壇を整備し、美しい農村環境づくりに取り組んでいる。



③ため池の危険啓発看板の設置

中山間地域等直接支払交付金を活用し、地域住民の安全を守る活動を行っている。



④「新そばまつり」での交流

男性が中心となり、大平自治会や大平そば愛好会と連携し、そばの加工・販売を行っている。



中山間地域等直接支払交付金の実施状況（H29）

- 交付面積：72.9ha（田・急傾斜と田・緩傾斜）
- 交付金額：11,129千円（うち、共同取組活動充当額 4,472千円）



将来の目指す姿

(1)担い手対策

中山間地域等直接支払交付金を活用して草刈り機を整備し、農業生産活動の省力化を図るとともに、若い世代の方々に農作業への参画を働きかけ、世代交代を図る。また、個人ごとの農地管理には限界が見えてきたことから、将来的には営農組合の立ち上げを視野に入れながら、農用地の管理や農地集積を行う。

(2)農産物の高付加価値化及び地域活性化

県内外のそば屋の視察研修を通じて得た技術や経営のノウハウを生かし、そばまつりを今後も継続しながら、そばの加工・販売による農家所得の向上に努める。

大平ゆいっこ味噌グループが作る味噌は評判が良いが、まだ販売には至っていない。今後は、大豆の作付面積を拡大するとともに、加工施設を整備し、農事組合法人おくとたま農産と連携しながら味噌の販売を実現したい。

平成30年度
いわて中山間賞
受賞

山田町 白石集落農業生産組合

～そばと水車小屋を組み合わせた農村交流の取組～

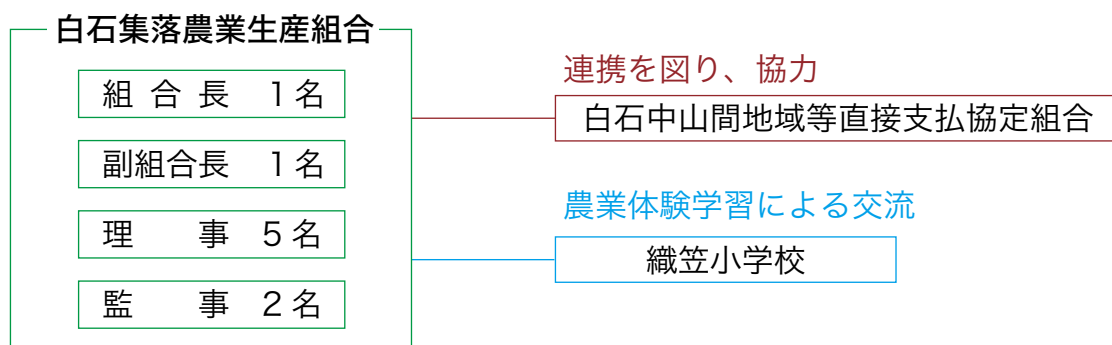


概要

- 山田町南部の織笠地区にあり、準用河川「白石川」の東西にまたがる集落である。
- 中山間地域等直接支払制度に取り組んでおり、農業生産活動を通じたそばの販売額の向上を目標としている。
- 高齢化が進んでいるが、消費者との交流や農産物・加工品の販売などを通じて、集落の農業者がやりがいを感じており、また、女性や高齢者の活躍の場が広がり、組合員の活動意欲が高いものになっている。



組織体制図



特徴的な取組

- 耕作放棄地の発生を防ぐため、平成 20 年から、高齢化等で作付けが困難となった農用地でそばの作付けを開始した。平成 24 年には、集落にあった水車小屋を再建したことを契機に、集落で生産した米やそばを製粉し、団子・餅に加工するなど高付加価値化に取り組んでいる。
- 平成 29 年に、山田町特産の海藻「アカモク」入りのそばを開発し、毎年 11 月に開催する「白石水車まつり」で提供しているほか、今後は、水車小屋に併設している農家レストラン「ごっとな茶屋」で販売する予定としている。
- そば打ちや農業体験を希望するグリーン・ツーリズムの旅行客や地元の小学生を受け入れており、消費者、児童を対象に、食や農業への関心を高める活動を行っている。
- 平成 28 年に、生産組合の愛称を、水車の音にちなんで「ごっとな会」としたほか、組合のロゴマークを作成し、のぼり旗やシールのデザインに使用して PR するなど、にぎわいを創出するためのツールとして活用している。



活動写真



①再建した水車小屋

平成24年に「いわて未来農業確立総合支援事業」を活用して再建した。米やそばを製粉している。



②そば&野菜づくり全部体験

そばや野菜づくりの全部体験を開催（年間8回）。特産のアカモクを使用したそば打ち体験も随時開催している。



③地元の小学生による田植え体験

織笠小学校が実施する稲作体験学習を受け入れ、水田圃場の提供や、田植え・稲刈り作業の指導を行っている。



④「ごっとん会」のロゴマーク

やまだワンダフル体験ビューロー（山田町役場）と連携してデザインし、菓子のパッケージなどに使用している。



中山間地域等直接支払交付金の実施状況（H29）

- 交付面積：3.1ha（田・急傾斜と田・緩傾斜）
- 交付金額：551千円（うち、共同取組活動充当額 275千円）



将来の目指す姿

(1)新たな人材の確保による集落の維持

組合員の高齢化が進んでおり、世代交代が進んでいないことが課題である。集落内に担い手農業者となりうる者がいないことから、定年帰農者の担い手としての育成や、集落外からの新たな人材の確保について、関係機関と連携しながら検討していく。

(2)農家レストランの営業や民泊の受入れによる所得向上・地域活性化

平成31年度に、農家レストラン「ごっとん茶屋」を、週末限定でオープンする予定である。ごっとん会ではアカモクを使用したそば打ち体験を実施しているので、農家レストランでも地域独自のメニューとして提供し、集落の知名度UPを図りつつ、売上げ向上につなげる。

また、民泊についても関心があり、昨年度に野田村の受入れ農家を視察した。視察後には組合員3軒の家庭で民泊の受入れの練習を実施し、町内有志の方々に実際に宿泊してもらうなど、前向きに検討を進めている。

明日の高松を考える会

～安心して暮らせる、
未来に希望の持てる高松～

花巻市
高松地区



地域ビジョンの概要

《めざす姿》

『地域住民が安心して暮らせる、未来に希望を持ち、多様なスタイルでいきいきと暮らせる高松第三行政区』 ～農業・福祉・交流による地域の活性化～

《集落の概要》

- 現状：高齢化により農地の維持が困難、水田の排水が悪く転作が困難、農業所得減少。
- 課題：地域を支える人材育成、圃場条件の改善により需要に応じた生産や6次産業化による所得の向上、雇用創出、地域に新しい風を（移住・定住に向けた交流）。



事業概要 《平成28年度 事業費516千円》

- 地域リーダーの育成と体制整備
- 地域内のレストランと連携したオリジナルメニューの開発
- 立地条件を活かした農産物の生産とブランド化
- 食文化の伝承と自然景観、環境の保全
- 地域ぐるみで行なう活性化の発信



事業目的

「みんなが主役、みんな実践」を
合言葉に目標を達成する！

《目 標》

◦ 農 業

生産基盤の整備と、需要に応じた新作目の導入、6次産業化による所得と雇用の創出。

◦ 福 祉

高齢者の知恵と技を活かし、生きがいを生み出す。

◦ 交 流

移住・定住に向けた交流、関係人口の創出。



これまでの成果

- 事業を行うことで、構成団体の情報共有と連携強化につながった。





これまでの取組内容



①集落紹介 DVD の作成

集落で取組む活動内容や高松地区の魅力を伝えるため、ドローン等も活用しながら、集落紹介映像を作成。



②ふるさと宅配便

地区内で生産された農産物や加工品を都心に暮らす地元出身者に定期的に届ける「ふるさと宅配便」を実施。



③加工特産品の開発

地域資源である「ガマズミ」や「ナツハゼ」などの山の果実を活用したゼリー等の商品開発を実施し、雇用の創出や収益向上に取り組んでいる。



山の果実
ガマズミ

④景観形成活動

地区民総出で取り組む草刈りなどの景観形成活動により、魅力ある里山の景観維持に取り組んでおり、魅力的な景観に誘われて十数年間に12世帯が移住している。



三川長根の種蒔き桜



花巻八景の「平良木の立岩」



今後の取組

- 花巻市や岩手県立大学などの連携団体との協働による「地域共生社会」の実現をめざす。
- 地域リーダーの育成と体制の整備。
- 農産物の地域ブランド化に向けた営農計画の策定。
- 食文化の伝承と自然景観、環境の保全。
- 地域ぐるみで行なう活性化の発信。

農事組合法人さらき

～地域間交流を通して伝える更木の宝～

北上市
更木地区



地域ビジョンの概要

《めざす姿》

『誇れる自然、歴史、農業、教育 ～地域 みんなで守る更木の宝～』

《集落の概要》

- 主力作物である米等の地域ブランド化が十分でない。
- 都市住民、修学旅行生等に更木の良さを知ってもらうため、受入体制の充実や、交流活動の実施が必要である。
- 農家人口の著しい減少に伴い、農業生産法人が地域の80%以上の農地を集積して維持管理に努めているが、畦畔除草作業等が難しくなっている。



事業概要 <平成29年度 事業費871千円>

- 地域特産品の開発による農産物のブランド化
- イベント開催による都市農村交流の実施、地域農産物のPR
- 新規就農者など若い担い手を確保



事業目的

- 域農産物のブランド力を高めるため商品開発を実施。
- 都市農村交流のため、イベントを開催
- 就農希望者を法人が雇用し、農業者として育成。

《目 標》

- **地域農産物の開発・ブランド化**
現状(H28) 1品⇒目標(H33) 2品
- **新規就農者の確保**
現状(H28) 0名⇒目標(H33) 1名
- **イベントの開催**
現状(H28) 1回⇒目標(H33) 3回



これまでの成果

- 県内の酒蔵に更木の米を提供して、オリジナル日本酒を委託製造し、販売開始。
- 地域一丸となってイベントを開催し、市内全域の住民に広くPRして交流を図るとともに、更木産の農産物をPRした。
- 小中学生を対象にグリーン・ツーリズム(農業体験、生き物調査等)に取り組み、18名が参加した。
- 岩手県農業公社主催の就農フェアに参加し、新規就農者1名が法人に就農した。



これまでの取組内容

- 更木の米でオリジナル日本酒を委託製造し、販売開始。
- 更木の文化や農産物をPRするためイベントを開催し、市内全域の住民と交流を図った。
- 更木の自然及び農業に親しんでもらうため、小中学生を対象にグリーン・ツーリズム活動(農業体験、生き物調査等)に取り組んだ。



①地域特産品の開発

更木のひとめぼれで作った日本酒「さらき純米吟醸」や「更木桑茶ソフトクリーム」を開発



②更木夏まつりの開催

地域外からきた大勢の方々に、更木の伝統芸能・縄文文化を披露し、交流を深めている。



③グリーン・ツーリズムの実践

農業体験や市内小中学生によるビオトープでの生き物調査などに取り組んでいる。



④収穫祭

更木産の農産物やオリジナル日本酒等を販売し、地域所得向上に繋げている。



今後の取組

- オリジナル日本酒を通して更木を広く知ってもらうため、販路を広げていく。(北上観光物産館、ふるさと納税返礼品等)
- 小中学生に更木の良さや伝統文化を知ってもらうため、農業体験・生き物調査・養蚕体験を実施する。

橋野町振興協議会 農業農村活性化推進部会

～梅えもんと心躍る舞茸で
世界遺産のおもてなし～

釜石市
橋野地区



地域ビジョンの概要

《めざす姿》

『橋野鉄鉱山等の観光と連携した農産物の
売上増と農業者が生き生きと暮らせる地域』

《集落の概要》

- 農家戸数:92戸
- 農地面積:10.48ha(田)、13.78 ha(畑)
- 観光資源:橋野鉄鉱山(世界遺産)

《課題》

- ①直売所の充実した品揃えの必要性
- ②原木椎茸等の出荷制限による集落の生産力の減少
- ③若手農業者・定年帰農者の栽培技術習得の必要性



事業概要 <平成28年度 事業費561千円>

集落に設置されている直売所（橋野どんぐり広場産直）を核とし、農業者の創意工夫による取組として新規に「梅」と「舞茸」を導入し、市内企業向けの加工原料の生産拡大や特色のある農産物の生産を行う。これにより、農産物の売上向上と農業者が生き生きと暮らせる地域づくりを推進する。



事業目的

- 産地直売所の品揃えの安定化と販売額向上
- 世界遺産の登録を契機として、観光等と連携した農業の維持、地域活性化

《目 標》

- 指標名：地域内の直売所の販売額
現状(H27) ⇒ 目標(H32)
23,458千円 25,000千円



これまでの成果

- 集落共通の品目として梅と舞茸の導入により、共同活動の回数が増加した。
- 産地直売所付近の農地への梅の新植により、遊休農地が解消した。
- 梅と舞茸の導入を契機として加工による高付加価値化等、所得向上に向けた検討を行った。
- 岩手県立大学を受け入れ、地域活性化のワークショップを行った。



これまでの取組内容

《ビジョン策定関係》。ビジョン策定にむけた検討会(3回)

《事業実施関係》。梅の苗木の新植(200本)

- 原木舞茸の導入(120株)
- 梅と舞茸の講習会と現地指導会の開催(5回)

《その他》

- 地域協働研究を行う岩手県立大学の受け入れ(4回)



①梅

遊休農地の有効活用、梅干しとして直売所へ、梅酒を製造する酒造会社への出荷等の幅広い用途のある食材が、集落での共通の取組品目として決定した。



②舞茸(原木)

震災前は、原木椎茸の一大産地であったが、出荷制限により販売額が大きく減少。秋の集客力ある食材として舞茸を共通品目として決定した。



③梅と舞茸の栽培講習会

集落で共通で取り組む品目を決定し、定期的な講習会を開催したことで、定年帰農者も含めた積極的な参加が促進され、共同作業が集落へ新たな活力を生んでいる。



④橋野どんぐり広場産直

平成8年開業。世界遺産「橋野鉄鉱山」への途中にあり、地域の野菜や農産加工品を販売。訪れる人々の交流や集落の農家が集まる交流・おもてなしの核となる施設である。



今後の取組

- 遊休農地の共同管理により高齢の農業者が参画できる梅と舞茸の産地化を図る。
- 地域の直売所を「核」として、おもてなしイベント等を実施する。
- 将来的には、直売所に加えて地域食材を活用した農家レストランを経営する。

下有住いきいき活動協議会

～そばで地域がいきいきと～

住田町
下有住地区



地域ビジョンの概要

《めざす姿》

『誰もが、手軽に、楽しく、美味しく』

《集落の概要》

- 気仙川の清流や山々に囲まれた自然豊かな場所であり、地域の行事に積極的に参加してくれる人が多くいることや食の伝承活動などが熱心な地域である。
- 一方、中山間地域のため耕作面積が小さく高齢化に伴い遊休農地が増加。
- 町が進める「小さな拠点づくり」施策で、地区の課題解決のため昨年6月に地域協働組織を設立し、遊休農地を活用した世代間や地区外との交流を目指す。



事業概要 《平成29年度 事業費1,500千円》

- そば打ち機器、製粉機の導入、その他イベント用機器の導入。
- 「そば栽培からそば打ちまで」を一貫して実施し多様な世代間で交流。
- 収穫祭などの地区の交流イベントで地域の産品を食べ喜びを共有する。



事業目的

- 遊休農地の減少
- 農業生産の省力化と農地の有効利用
- 地域内外、世代間の交流の深まりを目指す

《目 標》

- 遊休農地の減少
- 地域交流事業の継続
- 運営組織の仕組みづくり



これまでの成果

- 事業実施により遊休農地1ヘクタールが利用でき、実施する事が可能だと検証された。
- そば打ちを自治公民館4箇所で開催し、交流を通じ、農地の問題や地区の困り事等の意見交換する場が新たに出来た。
- 交流事業に農作物を利用する事で、地域の資源として新たな価値が生まれた。



これまでの取組内容

- 子供から高齢者までそば栽培に取り組み、幅広い世代で活動をスタート。
- 省力化のため、効率的な汎用コンバインでの刈り取りを依頼。
- 子供から高齢者まで、そば打ち技術を伝承し、これまで40名以上が体験。
- そば打ちを通し、各地区の課題などをヒアリングし、次期活動の参考にした。
- そば打ち機器、製粉機、イベント機器等を整備した。
- 今後、そば打ちを通じた世代間交流を通じ、地域の課題解決に向けた取組みを継続していきたい。



①耕作放棄地の解消

集落全体で耕作放棄地を解消に取り組み、解消後は子供、老人クラブによるそばの種まき等を実施。



②そばの作付

集落でそばの作付に取り組むにあたり、コンバイン導入による刈取作業の省力化を実施。



③そば打ち体験会

事業を活用して、そば打ち道具や製粉機を導入し、そば打ち体験会を実施、地域内外や世代間の交流拡大に取り組んでいる。



④そばを通じた地区の座談会

集落で収穫したそばを食しながら、これまでの取組の反省や今後の活動内容などについて、活発な意見交換を実施。



今後の取組

- 地区はもとより、町内全体に波及し、そばの里ができるような仕組みづくりを行う。
- 地域外のファンを増やし、地域外との関係性も強化していきたい。
- そばの商品化等を進め地域の運営資金の財源に活用したい。

日野沢館石会

～山里の恵みを生かした
豊かな農山村の創造～

久慈市山形町
日野沢地区



地域ビジョンの概要

《めざす姿》

『地域資源を活用し、地域住民が一丸となった取組により、
明るく住みよい活気あふれる農山村の創造』

《集落の概要》

- 人口約150人、世帯数55戸、65歳以上の割合は40%を超え、少子高齢の農山村。
- 農家戸数は約20戸、規模が小さく兼業農家が多い。
- 集落内の組織は多いが、重複している。地域づくり団体の多いことが特徴。
- 自然、文化、伝統素材等、地域資源は豊富だが、未活用が多い。



事業概要 <<平成29年度 事業費1,188千円>>

- 食用に加え、景観作物として期待される赤そばの作付 (644 千円)
- そばの新品種の作付け実証 (176 千円)
- 地域一丸となった「赤そばまつり」の開催 (368 千円)



事業目的

- 赤そばや新品種のそばの作付による耕作放棄地の解消
- 赤そば祭りの開催による交流人口の拡大と集落の活性化

<<目 標>>

- 耕作放棄地解消面積
現状(H28)610a ⇒ 目標(H33)800a
※平成22年度からの累積
- 赤そば作付面積
現状(H28)163a⇒目標(H33)250a
- そばの反収
現状(H28)8.5kg⇒目標(H33)50kg
- 加工品宅配販売
現状(H28)800set⇒目標(H33)1,200set



これまでの成果

《平成30年度指標の状況》

- 耕作放棄地解消面積
610a ⇒ 622a
- 赤そば作付面積
163a ⇒ 92a
- そばの反収
8.5 kg ⇒ 12.1 kg
- 加工品宅配販売
800set ⇒ 600set
※「加工品宅配販売」は平成29年度実績



これまでの取組内容

- 赤そば(高嶺ルビー)の種子を200aに栽培。なお、8月以降の低温と長雨の影響により種子の採取量は少量にとどまった。
- そば新品种「にじゆたか」を622aに栽培。天候不順により思うような収穫ができなかった。
- 地域内農産物や山菜、きのこ、郷土料理等を販売する「赤そば祭り」(10月1日)は、地域内外から多数が訪れ賑わった。
- 年末に、そば加工品(手打ちそば)の注文販売を行った。そばの生産量の増加、手打ちそばを打つ技術者の育成が急務である。



① 荒廃農地の再生

地域住民が重機を操作し、荒廃農地を再生し、そば等を作付けしている。



② 赤そばの作付

集落の特産品として「赤そば」の作付を推進。食用以外に景観作物としても適しているため、関連イベント等も実施



③ 赤そば祭り

地域所得向上や地域外の住民との交流拡大に向け、赤そば祭りを開催し、地域で生産された農産物等の販売等を実施



④ パークゴルフ大会

赤そば祭りと合わせて、地域外からの来場者を交えた大会として開催されており、毎年、県外を含め、多くの参加者が集まっている。



今後の取組

- 気象状況を鑑み、播種時期に工夫を凝らし、平年作以上の収量を目指す。
- 栽培技術の向上や土壌改良など、専門機関から指導を仰ぎ、収量増を図る。
- 地域一丸となったイベントは、意識共有化と深化のために取組を継続する。
- 人材育成に取組むとともに、廃校など地域資源の更なる活用策を研究する。

大沢農村振興会

～究極のゴール

…出稼ぎのないむらをつくること…
実現に向けて～

洋野町
大沢地区



地域ビジョンの概要

- 《めざす姿》
- 一、物心ともに豊かなむら
 - 一、理想の農村「アグリノ里」
 - 一、愛郷心醸成
 - 一、自らのむらは自らで創る

《集落の概要》

- 〈強み〉
- 古くから地域づくり推進体制、自治会組織の結束があり、集落のまとまりがある。
 - 大沢農村振興会を設立し、共同型農業を推進。
 - 昔ながらの自然環境を維持。ほたるの自生する田園、初夏のツツジが魅力の「久慈平岳」(標高706m)のふもとで、地域全体をアグリパークと捉え、活性化の取組みを展開。
 - 地域拠点「アグリパークおおさわ(洋野町農村総合交流促進施設)」、地区独自の歌「おおさわの賛歌」、「小さなむらの大きなお祭り」、「手づくりダイちゃん豆腐」、「都市との交流」等の有形無形の地域資源が豊富。
- 〈弱み〉
- 高齢化の進行(65歳以上37%)
 - 拡大余地のある農産物の生産、6次製品の販売チャンネル・エリア
 - イベント・メニューの固定化
 - 優れた若きリーダー・人材不足、スキルの向上



事業概要 《平成28年度 事業費558千円》

アグリパークおおさわを拠点とした広域的な交流人口の拡大を図るため、「収穫感謝まつり」を開催し、地元の農産物を活用するとともに、地域住民総参加の手作りイベントとして企画・運営。優れた農村環境をアピールするとともに、環境保全活動の意識を高めるため、山女の放流を企画。また、冬期間に減少する来場者の確保が課題であり、ウェルカムイルミネーションを設置し、交流人口拡大に努める。



事業目的

＜交流活動型＞

- イベントメニューの拡充(独創的な企画と魅力ある演出)

《目標》

- イベントを通じた地域への来場者の確保
- 収穫感謝まつり
現状(H27)764人⇒
目標(H32)800人
- 12・1月来場者数
現状(H27)19,797名⇒
目標(H32)22,000名



これまでの成果

- 振興会設立以来の継続的な取組により、住民意識の変化が生まれ、活力に満ちた地域づくりが進んでいる。とりわけ、地域一丸となって取り組む意識は大きなチカラ。
- 地域ビジョン並びに事業活用策を検討した際、改めて優れた地域資源を大事にすることの重要性を認識し、ヤマメの放流について発案。
- イルミネーションのアンケートでは、良好な回答が得られたものの、冬期の来場者数増加の効果はこれから。今後も、デザイン等工夫を加えながら、発展させていきたい。また、その他の冬期イベントについても検討を行なう。



これまでの取組内容

秋の収穫感謝まつりの開催

- 継続して実施している収穫感謝まつりのメニューを拡充
- 地域を流れる清流の保全活動の一環としてヤマメの稚魚を放流

ウェルカムイルミネーションの開催

- 冬期のイベントとしてウェルカムイルミネーションを設置

岩手県立大学学生チームによるワークショップ

- イルミネーション、地域資源の活用等、意見交換・懇親会の実施

冬期イベントに関するアンケートの実施

平成30年度以降も事業に継続して取組

- 収穫感謝まつり、サマーフェスティバルのメニュー拡充
- 秋の久慈平岳登山会の開催
- ウェルカムイルミネーションの継続実施と情報発信



①収穫感謝まつり

地域を流れる清流の保全活動の一環として川魚の放流やもちつき体験を実施し、地域内外の住民との交流活動を実施



②ウェルカムイルミネーション

ウェルカムイルミネーションの設置により、地域への訪問が少ない冬期の訪問者の増加に取組んでいる。



③大学生と連携したビジョン作成

岩手県立大学学生チームによるワークショップを実施し、若者の視点も取り入れた地域ビジョンを策定



今後の取組

- 「共同による農産物、農産物加工品の生産」、「イベント開催による交流人口の拡大」を推進。
- 「地域出身者との交流」、「おおさわの讃歌(うた)の放送」を実施。
- 「優れたリーダーの育成」、「独創的企画と魅力ある演出による集落の情報発信」を推進。

瀬月内自治会

～地域住民総参加による
瀬月内集落の環境改善と6次化の推進～

九戸村
瀬月内地区



地域ビジョンの概要

《めざす姿》

『集落内各組織が連携した活力のある集落形成』

《集落の概要》

- 瀬月内地域は地域活性化に向けた結束力が強く、自治会、農家組合、中山間直接支払集落、老人クラブ等が連携した取組が多い。
- 8月に夏祭りを開催し、帰省客を交えた世代交流の場を創出。
- 10月に廃校で開催される「瀬月内川流域収穫祭」では、農産物販売やお振る舞いを行い、村内外からの来場者も多い。



事業概要 <平成28年度 事業費1,181千円>

- 産地直売所の活用及び収穫祭の実施
- 集落内耕作放棄地解消、花壇整備による景観向上
- 夏祭り、新年交歓会開催による世代間交流の実施
- 加工施設の有効活用による高齢者の活躍の場、コミュニケーションの場の創出



事業目的

- 共同花壇の整備
- 遊休地の整備・種まき
- 産地直売所の開催運営及び先進地視察研修の実施
- 瀬月内川流域収穫祭の開催運営
- 加工施設の整備・活用

《目 標》

農作物加工の技術習得、
伝承を行い、
全員が活躍できる地域を目指す



これまでの成果

- 共同花壇の土壌を改良したことから、排水性が向上した。
- 遊休農地の整備、景観形成作物の播種により景観が美化した。
- 収穫祭にて来場者プレゼントを企画したところ、前年より来場者数の大幅な増加に成功。



これまでの取組内容



①共同花壇の整備

集落の景観保全活動の一環として、共同花壇の整備を実施し、住民総動員で花苗定植



②耕作放棄地の整備

耕作放棄地解消に集落で取組み、景観作物として「菜の花」の作付を実施



③収穫感謝祭

農産物販売や地域の農産物を使用した料理の振舞いを行い、地域内外の住民と交流



④瀬月内神楽

地域の伝統文化である「瀬月内神楽」の伝承活動として、世代間・地域間交流イベントを実施



今後の取組

- 産直施設の有人化、通年営業に向けた体制整備
- 花壇の花植えや世代間、地域間交流を通じてより豊かな地区を作り上げる。
- 耕作放棄地の活用増加

中山間地域等直接支払制度について

中山間地域等において、集落等を単位として、農用地の維持・管理等を定めた「協定」を締結し、それに基づき活動を行う場合に、面積に応じて一定額を交付する仕組み。

- ① 対象者：集落等を単位とする協定を締結し、5年間農業生産活動等を継続する農業者等
- ② 農用地面積：10aあたりの交付単価（体制整備単価※の場合）

地目	区分	交付単価(円)	地目	区分	交付単価(円)
田	急傾斜(1/20以上)	21,000	草地	急傾斜(1/20以上)	10,500
	緩傾斜(1/100以上)	8,000		緩傾斜(1/100以上)	3,000
畑	急傾斜(15°以上)	11,500	採草放牧地	急傾斜(15°以上)	1,000
	緩傾斜(8°以上)	3,500		緩傾斜(8°以上)	300

※体制整備単価：水路・農道等の管理などの農地管理活動に加え、機械・農作業の共同化や女性・若者等を加えた農産物の加工・販売など、農業生産活動体制の整備・強化に取り組む場合の単価

いわて中山間地域 いきいき暮らし活動支援事業について

地域資源を活用した商品開発や、都市住民との交流活動など、中山間地域で行う住民のアイディアを活かした地域活性化の取組に係る経費に対して補助

- ◆事業実施主体：3戸以上で構成された中山間地域の住民団体
(※構成員のうち1/2以上が農業者であること)
- ◆補助率：対象経費の1/2（補助上限75万円）
- ◆採択基準：地域ビジョンを策定した集落
(地域ビジョン：集落単位で、地域住民が話し合いにより作成する、農業を核とした地域のめざす姿と、その実現に向けた取組等の計画)
- ◆事業内容：
 - <地域資源活用型> 地域資源を活用した新商品の開発や、新品目の試験栽培を行うための取組などを支援
 - <集落サポート型> 地域の営農活動を継続するための作業受委託などのサポート体制づくりを支援
 - <交流活動型> 農業のお試し体験など都市住民等との交流活動を行うための取組を支援

※各制度の詳細は、広域振興局農政担当部・農林振興センターもしくは市町村の担当部署にお問い合わせください。



いわて中山間地域取組事例集
岩手県農林水産部農業振興課

